

第六回生 学年同窓会報告

私たち全日制第六回卒業生は、今年一月三日（水）正午より、一宮市内の「江美」を会場として学年同窓会を実施しました。私たちは昭和六十一年以来、五年おきに学年同窓会を開催することにしており、今回は平成三年について、三回目となります。過去二回と同様に、今回も永井清澄君の呼びかけで有志幹事が集まり、昨年七月に最初の幹事会をもち、十月に往復はがきで恩師の先生方と同級生全員に案内を発送しました。私たちは学年同窓会開催の時期を年始と決めているのですが、過去二回が正月三日を過ぎてから開催したのに対して、今回は、正月に地元へ帰省してくる人に配慮して、三日の中に期日を設定しました。この期日の設定には一長一短があった、毎回苦慮するところでした。

今回は、恩師として後藤幸男先生、永田敬三先生、森藤水直先生にご出席いただきました。一方、同級生の参加は五十五名でした。第一回の出席者が恩師・同級生を合わせて七十名、同様に第二回の出席者が七十三名だったことを考えると、今回はやや出席者が減少してしまいました。正月三日だからこそ出席できないという人の方が多かったのかもしれませんが。

会はいつも通り、有志幹事を代表しての永井君のあいさつに始まり、三名の恩師の先生方からのあいさつ、そして記念写真の撮影と進み、ついで内田幸彦君の発声で乾杯をして、会食へと移りました。中には、高校を卒業して間もないころに実施したクラス会の出欠はがきをまとめて持参してくれた人もいて、大変なごやかな雰囲気の中

ちに思い出話に花が咲きました。自分ではまだまだ若いつもりでも、高校を卒業してはや二十四年。中には子どもが高校生かそれ以上という人も。高校時代の面影を残しながらも、皆おじさん・おばさんになってしまいました。この時はやはり青春時代へとタイムスリップ。まさに夢のような気分でした。またたく間に予定の三時間が過ぎ、最後は恩師の先生方に記念品を贈呈し、校歌を高らかに歌い、森藤先生のご発声で万歳三唱をして閉会となりました。ところで、この学年同窓会は前述の通りこれまで五年ごとに実施してきたのですが、三月の有志幹事会では、五年ごとではなく、オリンピックイヤーに合わせ四年度ごとに開催した方がわかりやすいという意見が出て、次回は平成十二年に開催することになりました。またその前年の秋に全員に案内を出しますが、今回都合が悪かった方も、次回は是非とも参加していただき、一緒に楽しいひとときを過ごそうではありませんか。



ラグビー部OB会

前顧問 棚橋 旭先生

ラグビー部は昭和四十八年に創部されてから、今年で二十四年目を迎えました。OB会員も三六〇名にもなり、歴史の若い学校では見られない勢力になっています。

OB会については、昭和五十五年一宮高校との定期戦の初年度にあたって発足しています。本来OB会の活動は、OB会員相互の親睦と現役部員への支援が主たる活動であると思っていました。今一つまとまりにかけていました。さらに悪いことには、一宮高校との定期戦が学校の教育上の行事で試合日程が組めなくなり、平成六年度から廃止になったことです。OB会員の集まる機会がなくなり心配されました。

幸いにも平成六年から一宮ラグビー協会のお骨折りで、一宮市民ラグビー大会が開催されることになり、OB会員の集まる機会も復活し心配もなくなりました。

この大会も今年で第三回目を迎えました。本校OBは、第二回、第三回大会の社会人の部で優勝の栄光に輝いています。

最後に、この大会を足掛としてOB会が組織化し、活性化することを期待しています。

退職の先生からの メッセージ

西高での思い出

棚橋 旭先生

卒業生の皆さん「お元気かな！」

先日同窓会係の市田君（昭和五十五年卒）から卒業生に送るメッセージを書いてほしいと依頼があり、「何んでおれが書くのか」と

と反論したら、毎年退職した先生にお願いしているとの返事、ああそうか、おれは退職したのかと我にかえる昨今である。

卒業生の皆さんには申し遅れましたが、今年三月三十一日を以って三十八年間の教員生活を終ることが出来たことを報告させて戴きます。

三十八年間を振り返って感じていることは、いかに学校改革や学校体制が変わろうが大切なのは自分の教員理念である。生徒を主体にした考え方を考えることなく、学習活動、部活動、生活面の指導が出来たことである。

西高には教員生活半分の十九年間お世話なり、感慨に深いものがあります。

特に指導部長時代の十年間が、一番充実していたと思います。指導体制、指導姿勢を変えるため指導室の開放、きびしい指導姿勢でも心をひらく指導を心掛けた。生徒諸君もこの指導に応じられました。私にとってはいい思い出になっています。

又、部活動での合宿活動が思い出として残っています。夏休みの暑い最中に校舎での宿泊、先生も生徒も睡眠不足。この合宿に見切りをつけ、自然環境の良い数河高原に合宿を求めたのはラグビー部でした。効果としては、毎年県レベルの成績をのこしていること、卒業生諸君（ラグビー部）にはおわかりないと思いますが、生徒の人間的な成長がうかがわれることと私は自負しています。受験体制が進み部活動が低調になりつつある西高ですが、卒業生諸君の支援をお待ちしています。

最後に卒業生の皆さんのご活躍を期待しお別れします。